

(講座) 臨床薬学

(研究室) 医療情報解析学

(氏名) 池田 理恵

(職名) 助教

【研究テーマ】

1. 医薬品及び生体内物質の定量を用いた中枢神経系への影響評価に関する研究
2. 医薬品適正使用にむけた医薬品情報の構築に関する研究

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Wada, K. Abe, R. Ikeda, S. Harada, N. Kuroda, K. Nakashima: Enhancement of peroxyoxalate chemiluminescence intensity by surfactants and its application to detect detergent, *Talanta*, **81** (3), 1133-6 (2010). (IF 3.290)

(A-b) 総説

1. M. Wada, R. Ikeda, N. Kuroda, K. Nakashima: Analytical methods for abused drugs in hair and their applications, *Anal. Bioanal. Chem.*, **397**, 1039-1067 (2010). (IF: 3.480)

(A-d) 紀要

1. R. Ikeda, K. Abe, M. Wada, R. Kikura-Hanajiri, N. Kuroda, K. Nakashima: Determination of methylphenidate and its metabolite, ritalinic acid, by high-performance liquid chromatography with peroxyoxalate chemiluminescence method, *Luminescence*, **25** (3), 219-220 (2010).
2. K. Nakashima, Y. Ochi, R. Ikeda, M. Wada, N. Kuroda: Study on detection window of hair root by HPLC with chemiluminescence detection after a single administration of drugs of abuse, *Luminescence*, **25** (3), 223-224 (2010).

B 邦文

(B-d) 紀要

1. 池田理恵、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎：血液-脳関門透過性に対して薬物乱用が及ぼす影響の *in vitro* 評価、*日本臨床化学会九州支部会誌*、**20**、10-11 (2010).

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. K. Nakashima, Y. Ochi, R. Ikeda, M. Wada, N. Kuroda: Study on detection window of hair root by HPLC with chemiluminescence detection after a single administration of drugs of abuse, ISLS 2010, July 13-16, oral presentation.

2. R. Ikeda, K. Abe, M. Wada, R. Kikura Hanajiri, N. Kuroda, K. Nakashima: Determination of methylphenidate and its metabolite, ritalinic acid, by high-performance liquid chromatography with peroxyoxalate chemiluminescence method, ISLS 2010, July 13-16, poster presentation.

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 池田理恵、横尾広美、水田夕貴、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎：血液-脳関門透過性に対して薬物乱用が及ぼす影響の *in vitro* 評価、第 20 回日本臨床化学会九州支部総会、平成 22 年 2 月 13 日、福岡、口頭発表。
2. 瀧上由貴、池田理恵、和田光弘、黒田直敬、中島憲一郎：MDMA 及び methamphetamine 同時摂取時のラット脳内における薬物動態評価、第 47 回長崎県総合公衆衛生研究会、平成 22 年 3 月 12 日、長崎、ポスター発表。
3. 阿部圭輔、池田理恵、和田光弘、花尻瑠理、黒田直敬、中島憲一郎：Methylphenidate 及びその代謝物 ritalinic acid の高感度 HPLC-過シュウ酸エステル化学発光定量法の開発、日本薬学会第 130 年会、平成 22 年 3 月 28-30 日、岡山、ポスター発表。
4. 猪狩佳子、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：MDMA 錠剤摂取時に想定される多剤乱用が脳内ドパミン及びセロトニンに及ぼす影響評価、日本薬学会第 130 年会、平成 22 年 3 月 28-30 日、岡山、ポスター発表。
5. 水田夕貴、池田理恵、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎：パクリタキセルの脳内移行性と薬物併用の影響評価、日本薬学会第 130 年会、平成 22 年 3 月 28-30 日、岡山、ポスター発表。
6. 一山公佑、池田理恵、和田光弘、前田隆浩、中島憲一郎：ルテニウム錯体化学発光を用いる新規葉酸定量法の開発に関する基礎的検討、日本薬学会第 130 年会、平成 22 年 3 月 28-30 日、岡山、ポスター発表。
7. 濱田光洋、石井 純、秋吉隆治、濱田典子、濱田哲也、宮崎長一郎、大脇裕一、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：保険薬局の患者情報に基づく Ca 拮抗薬と胃酸分泌抑制薬服用との関連性に関する調査研究、日本薬学会第 130 年会、平成 22 年 3 月 28-30 日、岡山、ポスター発表。
8. 中島憲一郎、一山公祐、池田理恵、和田光弘、黒田直敬：ルテニウム錯体-Ce 化学発光系による葉酸の簡便分析法の開発、生物発光化学発光研究会 第 26 回学術講演会、平成 22 年 6 月 6 日、東京、ポスター発表。
9. 和田光弘、中路洋輔、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎：マイクロダイアリシス-セミマイクロフローインジェクション法によるラットにおける抗酸化能測定法の開発、第 24 回バイオメディカル分析科学シンポジウム、宮城、7 月 21-23 日、ポスター発表。
10. 池田理恵、瀧上由貴、葛島美季、和田光弘、中島憲一郎：MDMA 及び メタンフェタミン同時摂取時のラット脳内における薬物動態学的及び薬力学的相互作用評価、法中毒学会第 29 年会、平成 22 年 7 月 23-24 日、東京（日本医科大）、口頭発表。
11. 和田光弘、越智裕子、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎：MDMA 類のラット毛根での保持挙動に関する基礎的検討、法中毒学会第 29 年会、平成 22 年 7 月 23-24 日、東京（日

本医科大)、ポスター発表.

12. 井上実穂、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：アデノシンの抗うつ作用解明を目的としたラット脳内アミンの動態評価、第 28 回九州分析化学若手の会、7 月 30-31 日、長崎、ポスター発表.
13. 井上実穂、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：HPLC-ECD 法を用いるラット脳内アミンの動態に及ぼすアデノシンの影響評価 - 抗うつ作用解明に向けた基礎的検討、第 59 回分析化学会年会、宮城、9 月 15-17 日、口頭発表.
14. Ahmed A. Almousa、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：Simple and rapid HPLC-UV method development for fentanyl determination in rat plasma, 第 59 回分析化学会年会、宮城、9 月 15-17 日、口頭発表.
15. 和田光弘、中路洋輔、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎：マイクロダイアリシス-セミマイクロフローインジェクション分析 (MD-SMFIA) 法によるラット血液および脳内抗酸化活性評価、第 59 回分析化学会年会、宮城、9 月 15-17 日、ポスター発表.
16. 石垣大輔、宮崎長一郎、山内秀子、宮崎理恵、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：ハイリスク薬における投与量評価を目的とした薬物動態学的ツール作成の試み、第 20 回日本医療薬学会年会、平成 22 年 11 月 13-14 日、幕張、ポスター発表
17. 中島憲一郎、Oraby Mohamed、池田理恵、和田光弘、黒田直敬：メマンチンの HPLC-FL 定量法の開発とラット血漿中モニタリングへの適用、第 21 回クロマトグラフィー科学会議、平成 22 年 10 月 21-23 日、西宮、ポスター発表.
18. 石垣大輔、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎：麻黄含有製剤中のエフェドリンの定量と体液 pH が安定性に及ぼす影響に関する基礎的検討、第 27 回日本薬学会九州支部会、12 月 11-12 日、長崎、口頭発表.
19. 一山公祐、池田理恵、和田光弘、前田隆浩、中島憲一郎：ルテニウム錯体化学発光によるサプリメント錠剤中葉酸の定量第 27 回日本薬学会九州支部会、12 月 11-12 日、長崎、口頭発表.
20. 中路洋輔、和田光弘、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎：マイクロダイアリシス-セミマイクロフローインジェクション分析 (MD-SMFIA) 法によるアスコルビン酸投与後のラット血液抗酸化活性モニタリング、第 27 回日本薬学会九州支部会、12 月 11-12 日、長崎、口頭発表.

【特許】

【研究費取得状況】

【学会役員等】

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	6 編	(邦文)	1 編
総説 (欧文)	2 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	1 編

紀要
特許

(欧文)

5 編
0 件

(邦文)

3 編